

平成25年度 学校自己評価表（最終評価）

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p>1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3. 様々な教育活動をとおして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4. 職業に関する資格・検定の取得に努め、望ましい勤労観・職業観を育て、進路意識の高揚を図る。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>1. 心身ともにすこやかな身体づくり 2. 就職と進学に応えられる学校づくり 3. 地域・地元に変えられ、信頼される学校づくり 4. ものづくり教育の推進</p>
---------------------------	--	-----------------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	年度当初		経過・達成状況	評価結果 3月	
			目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		評価	改善方策
1. 心身ともにすこやかな身体づくり		ほとんどの生徒が、気持ちよくあいさつをすることができ、服装、マナー、エチケットも向上している。全校の90%が無遅刻であり、集会でも5分前には集合が完了できるようにしてきた。また、環境に対する意識も向上し、ゴミの分別や清掃も概ねできている。学年が進行するにつれて、意識も行動も向上するが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。	○遅刻8%(44回)以下を目指す。	○8:30の予鈴には着席を完了させる。 ○遅刻届を活用し、2度目の遅刻がないように個別指導を充実させる。 ○朝読書におすすめの本のコーナーを設置し、図書館の本の利用と読書の推進に努める。	○今年度の遅刻目標を44回以下と設定したが55回の遅刻があった。そのうち防げる遅刻は17回である。また、8:30の予鈴着席は概ね定着した。	B	○全職員で機会を逃さず、根気強く指導を継続する。 ○服装や言葉遣いなどで徹底できていない約1割の生徒に対して迅速に指導していく。 ○服装指導は科間、学年間で大きな差がないよう、学年主任、科主任の連携を図る。 ○携帯電話・スマートフォン利用についてアンケート調査の結果、使用時間2時間以上が半数近くという結果を踏まえ、研修及び指導方法を検討する。
			○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、+αのあいさつが実践できる。	○学年集会等をとおして目指す姿を周知徹底する。 ○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールに対する課題を提示し、改善を促す。 ○一日の始まりのSHRでの指導を徹底する。(あいさつ・返事・服装・整理整頓・ハンカチの携帯) ○生徒リーダー(ルーム長、生徒会執行部、各部キャプテン等)への啓発指導を行い、生徒自身で注意し合え、改善について話し合える集団作りを行う。 ○教職員が一致した姿勢で、機会を逃さず指導を行う。 ○日常会話のなかで、正しい敬語が使えるよう意識し、生徒への指導を徹底するとともに大きな声ではっきりとした口調で対応する習慣を身に付けさせる。	○服装指導を月1回実施した。再検査対象者数は平均11%であった。 ○集団作り、リーダー育成の観点で、クラス目標発表会を行うなど、クラス代議員と連携した生徒会活動に取り組んだ。 ○男子ソフトテニス部による継続的な挨拶運動は特筆すべき取組であった。 ○ほとんどの生徒が正しい言葉遣いを身に付けている。		
			○環境に対する意識向上を目指す。	○教室等活動場所・使用場所の整理・整頓、清掃活動を徹底する。 ○実習等で排出される切りくずなどのゴミの分別を徹底させる。 ○環境問題や省エネを考えるパネル展示を設置して関心を深める。	○整理・整頓・清掃活動は概ねできている。 ○「服のチカラプロジェクト」への参加は、執行部を中心に地域への協力も要請するなど、取組として一定の成果があった。結果、19箱(330kg)の不要服を回収した。		
			○部活動加入100%を目指す	○部活動加入100%に対しても学年団を中心に部活動の意味を説くなど、指導に当たる。 ○恒常的な部活動加入状況や活動状況を把握する。 ○学校を愛し、校歌をしっかりと歌えるよう機会を見て指導する。	○年3回一斉部会を開催し、部活動への加入を促した。部活加入率は7月集計94%、12月集計88%であった。 ○校歌を歌う機会は少ないが、歌う場面では声を出す生徒が増えている。		
2. 就職と進学に応えられる学校づくり	早期に進路意識を自覚させ、就職・進学の支援体制を一層整備する。また、地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に合った進路実現を目指す。特に職業に関する資格・検定の取得や倉総版デュアルシステムの導入により、将来のスペシャリストを育てる。学力を分析し、基礎学力の定着を図るとともに、就職・進学に対応できる学力を計画的に身に付けさせる。学校生活全体において、生徒の表出の機会を増やし、生徒の思考力や判断力を高める。	自分の進路を自覚し、目標を持って入学してくる生徒もいるが、具体的進路目標が定まっていない生徒も少なくない。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分さがある。就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。	○低学年からの進路意識の向上と(インターンシップ・デュアルシステムの充実による)勤労観・職業観を育成する。	○早期に進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施するとともに企業や産業界の情報を積極的に伝える。 ○職場見学やオープンキャンパスへの参加を促し、自ら考え行動できるよう指導する。 ○地元企業の見学、社会人講師を導入する。 ○インターンシップの事前・事後指導を徹底・充実させる。 ○個人面接を積極的にを行い、早期に進路意識を高める。登校後の時間を有効活用し、学力向上に繋げていく。	○進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施し進路意識を高めることに努めたことにより就職内定率100%、進学合格者100%の結果が得られた。(3月) ○社会人講師を招いての授業を積極的にを行い、生徒の職業観を広げる良い機会となった。 ○インターンシップ、ビジネス実習を事後指導を含めて計画とおり実施し、勤労観・職業観を高めることができた。	B	○学力を分析し、基礎学力の定着を図るとともに、就職・進学に対応できる学力を計画的に身に付けさせる。
			○基礎学力の定着と表現力を向上させる。	○進路指導部と学年団の連携を密にする。 ○大学・短大・医療系進学希望の生徒に定期的に面接を実施する。 ○朝テストを毎水曜日に実施し、事後指導を徹底する。また、進学課外、夏季学習会を実施する。(3年)	○四年制大学への進学希望者などに、朝勉強や放課後等の学習会を企画し、定期的に学習する習慣の定着を図ることができたが、まだ不十分である。 ○朝テストや夏季休業中の就職者学習会は一定の成果が得られた。		
			○学習指導委員会による進学支援体制を確立する。	○進路指導部を中心に大学進学希望者のための、大学調査・大学訪問を実施するとともに、2年次の12月保護者会後、大学進学希望者や医療系希望者への意識付けや具体的な取組を実施する。 ○新教育課程に対応した教育課程の検討を行う。 ○進学の希望が実現できるような課題研究の検討を行う。	○学習指導委員会を開催し、生徒の志望動向情報を共有し指導体制の検討・確認を行った。 ○2年生については、早期(1月)に進路説明会を行い生徒・保護者に情報提供をおこなうことにより、進路意識を持たせ来年度への準備を進めることができた。 ○新教育課程に対応した教育課程やシラバスの作成の検討を進めた。		
			○課題研究と課題研究発表会の一層のレベルアップを図る。	○先進校の課題研究発表会視察を行う。 ○課題研究発表会の実施方法について検討する。 ○県主催課題研究発表会へ参加する。	○校内課題研究発表会を予定とおり実施した。 ○専門高校成果発表会(2/6)に生活デザイン科が発表し、機械科が展示を行った。		
3. 地域・地元に変えられ、信頼される学校づくり	学校開放・学校評価を具体化し、PTA・地域との交流を深め、学校理解・PRに努める。広報活動に力を入れ、保護者・地域の人が教育活動に参加できる機会を増やす。地域・産業界と双方向の交流により、相互理解を深める。	学校行事カレンダーやホームページ等により、保護者や地域、企業の方に学校の様子を知ってもらえるようになった。また、課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。中学校へ出向いての学校説明会や本校での学校説明会・学校紹介DVDにより中学校教員の本校への理解は進んできたが、中学生及び保護者の理解はまだ十分とは言えない。	○OPTA総会・PTA研修会参加者を増やす。	○OPTA総会の参加者を増やすために、生徒の部活動での様子を実演、学年懇談会などを行う。 ○PTA各種委員会の情報提供をこまめに行う。 ○学校行事や部活動成績などの情報発信回数を増やす等、HPの更新頻度をさらに上げるとともに、発信情報内容の充実を図る。 ○保護者への連絡などもHPを活用して情報提供を行う。	○OPTA総会での部活動実演、学年懇談会企画も総会参加者の増加には結びつかなかった。 ○HPの更新が早く、タイムリーに情報発信できた。	B	○PTA役員会等で総会参加者の増加にむけ検討を行う。
			○小中高大社連携の一層の促進を図る。	○小・中学校の出前授業の要請に積極的に応じる。	○小・中学校への出前授業・連携事業について、各科が積極的に実施した。 ○鳥取大学との交流連携事業を実施し、生徒が意欲的に取組、成果があった。		
			○中学生志願者数を増加させる。	○中学生体験入学の内容を改善充実させる。 ○学校祭・実習棟公開などで学科をPRする。	○中学生体験入学(延べ547人)を計画とおり実施した。生徒主体の説明等、内容の改善を図った。 ○生徒が学校紹介DVDを作成し情報発信に努めた。		
			○地域連携を一層促進する。	○課題研究・ボランティア活動をとおして、積極的に地域との交流機会を増やす。 ○定着指導、企業開拓、求人依頼のため、進路指導部と科で連携して県内の企業を積極的に訪問し、本校教育への理解の促進に努める。	○生徒は校外実習・課題研究・ボランティア活動に積極的に参加し、地域との連携を図った。 (電気と福祉・くらそうサロン・チャレンジショップくらそうや・鳥取県福祉ヘルプメイト等)		
4. ものづくり教育の推進	地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を持ち、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。学科の枠を超えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努め、総合選択制の特色を活かす。	「ものづくりコンテスト」への取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。しかし、ものづくり教育は専門分野だけでなく、環境整備や生徒会活動などすべての分野に通じるものであることこの認識に不十分な面がある。	○ものづくりコンテストを目指した取組を一層推進する。	○地域産業界と連携し、技能向上に努め、ものづくりコンテストへの出場を目指す。	○電業協会と連携して技術向上に努めることができた。 ○社会人講師等を活用し、加工技術の向上に努めた。	B	○電子掲示板、生徒会掲示板の充実を図る。 ○総合選択制の充実のため、選択科目等の見直しを検討する。
			○技術系クラブ活動を一層充実させる	○技術系クラブによる作品制作への取組を充実させる。 ○文化・技術系クラブの校内発表機会(場所)を創出する。 ○学校祭における学科の特色を活かした企画の提案を図る。 ○学校祭各種企画における共同制作を実施する。	○マイコンカーラリー、エコデンカーレース、ものづくりコンテスト等に積極的に参加した。 ○文化部の作品掲示など取組の充実を図ったが、部活紹介の掲示板は計画とおり作成できなかった。 ○学園祭の様々な企画をとおして、各科の特色を活かした取組ができた。		
			○学科間連携を促進させる。	○課題研究などでの学科間の連携を目指す。 ○学校設定科目「産業基礎」の指導内容をさらに充実を図り、今後の在り方を検討する。 ○総合選択制の科目の検討を行う。	○課題研究など学科間で連携しながら進めている。 ○学校設定科目「産業基礎」について検討を重ね、来年度廃止し各科で充実した授業内容になるよう検討したが、総合選択制の検討まで及ばなかった。		